

解答

問一 他者や世の中との関わりがうまくできない様子の青年だが、ピアノを弾きたいという「希望」は持っているので、まだ未来への可能性があるということ。

問二 調律後の「ド」の音を聞いただけが、それがすばらしい音であることを直感し、その驚きと感動を「僕」に伝え、すぐにまた次の音を確かめたいという気持ちでいる。

問三 ピアノから離れて椅子を探すことすらもどかしいくらい、ピアノを弾いていたいという気持ち。

問四 生きることの不器用で他者や世の中との関わりを失いかけていても、ピアノを弾き音がつくりだす世界の中で、喜びを感じる心をもった人間もいるのだということ。

問一 耳が聞こえず、手話しか話せないのは不幸なことなので、早く手術をして耳が聞こえるようになり、音声を話せることで幸せになってほしいという気持ちで勤める。

問二 手話を話そうる者を欠陥品のようにとらえる見方を改め、ろう者の意識を正しく認識すること。

問三 自文化中心主義の姿勢で、多数派の考え方や価値観を少数派の人々に強要するところ。

千里の道も一歩から

問一 地名の次にくる助詞が定まらず、車掌さんの意図がわからないこと。

問二 わたしも日本語の「助詞」の使い方と苦しんでいるということ。

問三 今の自分の気持ちですら、正確に表現できない自分自身が恥ずかしく、もどかしさを感じているから。